

(2002/01/22)

デバイス増設ユニット

デバイス増設ユニット

1.概要

デバイス増設ユニット N8141-28A (ラックマウント用)には、内蔵デバイスを最大 4 台搭載可能。

1 台のサーバから最大 2 台のデバイスを接続可能。

2 台のサーバに接続し、デバイス増設ユニットを共有可能。

デバイス増設ユニット(ラックマウント用)は、Ultra SCSI(Wide)インタフェースを 2 つ装備。

サーバ本体との接続は SCSI コントローラ(本体標準 SCSI I/F,N8103-42/-65)を経由して行う。

オプションの電源ユニット(N8181-21)を追加することで電源を冗長構成にすることが可能。電源はホットスワップ対応。

型名	製品名	U 数	備考
N8141-28A	デバイス増設ユニット (ラックマウント用)	2U	内蔵デバイスを 4 台まで搭載可能

型名	製品名	備考
N8143-50	ラック取付用ブラケット	デバイス増設ユニット(ラックマウント用)[N8141-28A]を、次の N 型番のラックへ取り付ける場合、必須。 N8540-01,02,09,10,09AC,10AC,28,29,38

●50 ピンのバックアップ装置

型名	製品名	備考
N8151-12BC	内蔵DAT	DDS1/DDS2/DDS3,12GB
N8151-25	内蔵3.5" MO	128MB/230MB/640MB
N8151-13AC	内蔵DAT集合型	DDS1/DDS2/DDS3,12GB×6, デバイスベイ2スロット占有

●68 ピンのバックアップ装置

型名	製品名	備考
N8151-26	内蔵DAT	DDS1/DDS2/DDS3/DDS4,20GB
N8151-27	内蔵DAT集合型	DDS1/DDS2/DDS3/DDS4,20GB×6, デバイスベイ2スロット占有
N8151-39	内蔵DAT集合型	DDS1/DDS2/DDS3/DDS4,20GB×8, デバイスベイ2スロット占有
N8151-17	内蔵DLT	35GB, デバイスベイ2スロット占有
N8151-38	内蔵SDLT	110GB, デバイスベイ2スロット占有
N8151-34	内蔵AIT	25/35GB
N8151-28	内蔵AIT	50GB
N8151-41 *2	内蔵AIT	100GB
N8151-36	内蔵AIT集合型	25GB/35GB×4, デバイスベイ2スロット占有
N8151-29	内蔵AIT集合型	200GB(50GB×4), デバイスベイ2スロット占有
N8151-37	内蔵LTO	100GB, デバイスベイ2スロット占有
N8151-40 *1	内蔵LTO	100GB

*1 電源連動はサポートしておりません。Server に電源連動して DC が ON しますが、OFF できません。デバイス増設ユニット背面の AC パワースイッチを OFF にして DC を OFF してください。

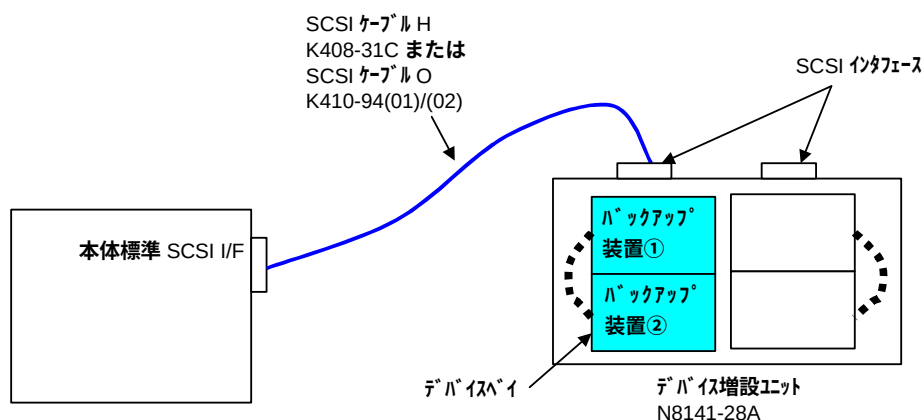
*2 N8151-41 内蔵 AIT は Ultra160 SCSI 対応デバイスの為、120Lf/R,120Rb1,120Rd2,180Rb7 (N8500-703/704)の外部 SCSI インターフェース(Ultra160SCSI)より接続して使用する場合は本体サーバの SCSI バスの SCSI 転送速度を 80MB/sec(40MHz)以下で使用してください。

2.機能仕様

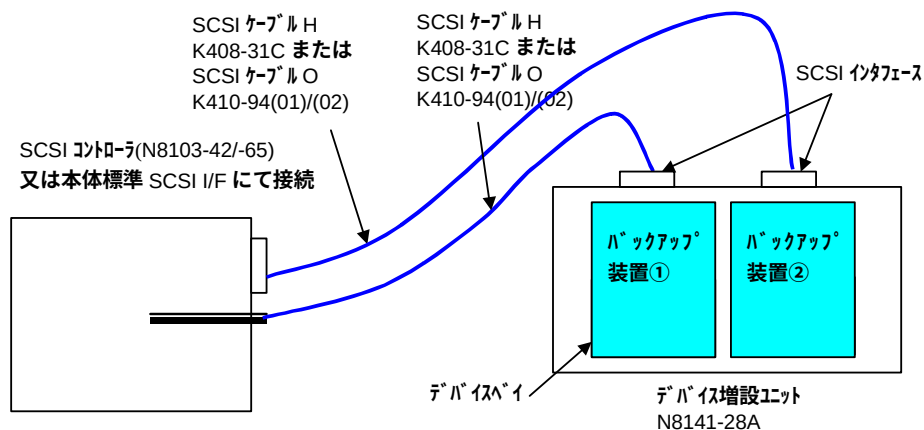
		N8141-28A
外形寸法		482.6(W)×690.5(D)×87.3(H)mm
質量(kg)		10
電源電圧(V)		100V ±10%
電源周波数(Hz)		50/60Hz ±1Hz
消費電力(VA)		336VA
発熱量(J/h)		973500J/h
動作環境	温度	5-35 °C
	湿度	20-80 %
コンセント		二極平衡アース付
外部インターフェース		Ultra SCSI(Wide)×2

3.接続形態(例)

■1 台のサーバから接続する場合



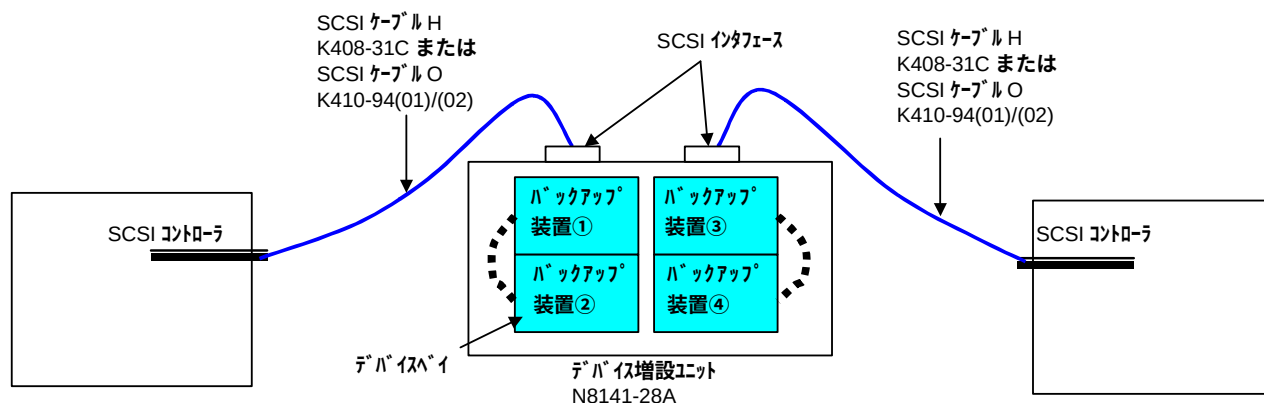
))) *デバイスベイを 1 スロット占有するバックアップ装置を 2 台接続したい場合の例



))) *デバイスベイを 2 スロット占有するバックアップ装置を 2 台接続したい場合の例

※SCSI コントローラ(N8103-42):K408-31C 使用/ SCSI コントローラ(N8103-65):K410-94(01)/(02)使用

■2 台のサーバから共有して接続する場合



※K408-31C(1A) -1.5m、K408-31C(02) -2.0m は N8141-28A 専用

※SCSI コントローラ(N8103-42):K408-31C 使用/ SCSI コントローラ(N8103-65):K410-94(01)/(02)使用

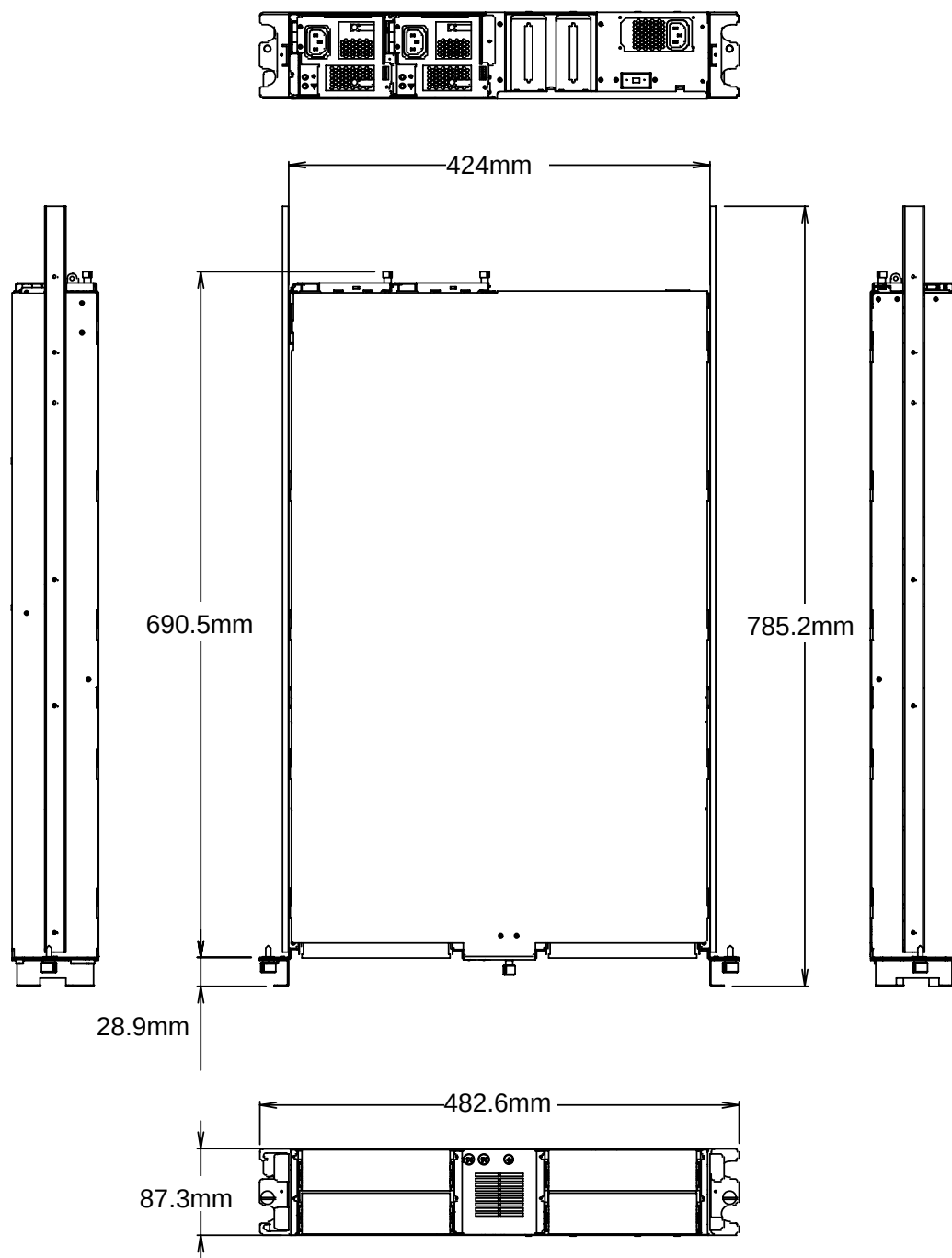
4.注意事項

- デバイス増設ユニットと接続する為の SCSI ケーブルは、別途手配が必要。
- 50 ピンのバックアップ装置と 68 ピンのバックアップ装置は同じ系統内では混在不可。
- 1 台のサーバからは最大 2 台のデバイスを接続可能。(DS1,2 と DS3,4 は接続不可)
- デバイス増設ユニットを 180Rb-7 本体 SCSI インターフェース(外部用)と接続する場合は、ARCServe 使用不可。ARCServe を使用する場合は、別途 SCSI コントローラ(N8103-65)が必要。
- デバイス増設ユニットは、Ultra 160 SCSI インタフェースは、未サポートです。
- SCSI コントローラ(N8103-56)は未サポートです。

■N8141-28A 接続ケーブルの線長について

- 120Ee(R)と接続する場合は、SCSI コントローラ(PCI)[N8103-65]を使用して下さい。
- 120Lf(R)の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K408-31C(01)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 10MHz に設定してください。
- 120Md(R)の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K408-31C(01)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 10MHz に設定してください。
- 140Hb(R)の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K408-31C(01)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 10MHz に設定してください。
- 110Rc-1 と接続する場合は、SCSI コントローラ(PCI)[N8103-65]を使用して下さい。
- 120Rb-1 の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K410-94(01)/(02)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 40MHz まで設定可能。
- 120Rd-2 の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K410-94(01)/(02)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 40MHz まで設定可能。
- 140Ra-4 の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K408-31C(01)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 10MHz に設定してください。
- SCSI コントローラ(PCI)[N8103-42]と接続する場合は、[K408-31C(01)/(1A)/(02)]を使用して下さい。
- SCSI コントローラ(PCI)[N8103-65]と接続する場合は、[K410-94(01)/(02)]を使用して下さい。
- 180Rb-7 の本体 SCSI インタフェース(外部用)と接続する場合は、[K410-94(01)]を使用して下さい。
本体サーバのデバイス増設ユニットに接続する SCSI バスの SCSI 転送速度を 10MHz に設定してください。

5. 外観図



(N8141-28A) 筐体サイズ 482.6mm(W)×690.5mm(D)×87.3mm(H)